

はじめに

2020（令和2）年以來のコロナ禍は2年におよび、いまだに収束への見込みは不透明な状況が続いています。しかも変異株によって、感染の蔓延は今までと異なった様相を呈しているように思われます。昨年は新型コロナワクチンの接種が可能となり、経口治療薬の投与が実用化されました。ウイルスに対してこれらの道筋が示されたことにより、感染が収束へ向かうことを切望するところです。

このような状況の中、前理事長の小野良樹先生が2021年9月29日に急逝されました。小野先生は“現状維持は退歩、活性化を”を座右の銘とされ、本会の発展のために熱意と愛情を注がれました。とりわけ最近2年間の難局には強力なリーダーシップを発揮され、職員・スタッフへ温かい励ましのメッセージを送りながら、本会の運営・発展に心血を注がれました。あらためて小野先生の偉業に心から敬意を表し、深く感謝申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

さて、本年も引き続き新型コロナウイルスへの感染対策は最も重要です。本会職員・スタッフの使命感・責任感のおかげで困難な中でも事業の継続性が保たれています。本会としては受診者様に安心してご受診いただけるよう、同時にスタッフが安全に働けるよう感染対策には万全を期していくことは論を待ちません。今後は感染状況にかかわらず、SDGsの観点から感染症に対して強い体制を構築することが必要です。その施策の一つとして本会内で可能な限りテレワークへの取り組みを検討することは喫緊の課題です。

一方、本会にはいくつかの光明が差しています。まずは2021年に引き続き健康経営優良法人ホワイト500の認定を受けたことです。健康経営とは「職員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること」であります。本会において、2019年10月、小野前理事長は「健康経営宣言」を行い、その後健康経営推進室が中心となってホワイト500の認定取得に向けて邁進してきました。今後も本会は予防医学を実践する者として、健康経営は大事な使命としてその取り組みを推進していく所存です。

次に新生児スクリーニング検査の取り組みがあります。本会は全国に先駆けて1974年から母子保健事業の一つとして先天性代謝異常症などの検査を開始し、現在は東京都からの委託を受けて実施しています。さらに拡大新生児スクリーニング検査の対象疾患としてライソゾーム病、重症複合免疫不全症、脊髄性筋萎縮症を取り上げ、これらに関する東京慈恵会医科大学等との共同研究に着手しています。本研究は有償検査・事業化が決まっており、本会にとって重要な研究の一つと位置づけています。

そして最も貴重な光明は、職員・スタッフが日々の業務に奮闘努力していることです。この前向きな姿勢と人のつながりを大切にすることによって、現在の状況を乗り越えていけるものと信じています。

以上述べた光明とともに本会の一連の事業がより一層健全化し、同時に職員・スタッフが快活な日常を取り戻すことができるよう心から願って止みません。

2022年3月

公益財団法人東京都予防医学協会
理事長 久布白兼行